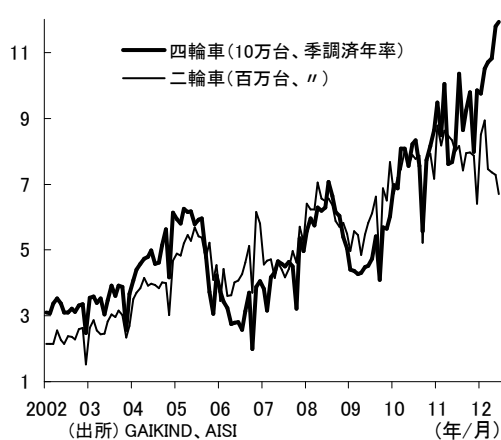


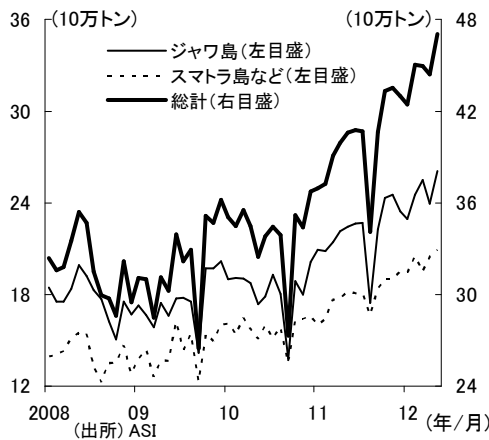
高成長続くインドネシア ～ 製造業の外資参入加速 ～

- (1) 6月の自動車販売は、四輪車は好調ながら二輪車が低迷（図表1）。二輪車産業協会によると、カカオ豆やパーム油等の価格低下で地方圏での売上低迷が主因。6月15日に導入された頭金規制、すなわち銀行ローンの場合、頭金の下限が住宅30%、自動車30%（商用車20%）、二輪車25%の影響は今後表面化との見方が有力。
- (2) もっとも所得水準の向上に伴い二輪車から四輪車への需要シフトは多くの国でみられた経験則。リーマン・ショックによる需要先送りでの10年初からの販売増が嵩上げされた結果、11年に入り、四輪車、二輪車ともに一進一退。着目すべきは本年来の対照的な両者の推移。6月の季調済年率販売台数は、二輪車が670万台で直近ピークの2月比▲224万台減に対して、四輪車は119万台で同1月比22万台増。カカオ豆やパーム油はピークの昨年初比低下したものの、リーマン・ショック前後を依然上回る高水準。所得増影響は無視出来ず。そうした観点からみると高成長持続が焦点。
- (3) そこで投資動向を示唆するセメント消費量をみると、月毎の変動はみられるものの、昨春来の力強い増勢持続（図表2）。エリア別には、まずジャカルタ周辺を中心とするジャワ島が牽引。次いでスマトラ島が近年、増勢加速。昨年5月末に発表されたジャワ島とスマトラ島の交通インフラ整備を中核とする政府の長期計画、『経済開発加速化・拡大マスタープラン』が起爆剤に。
- (4) 所得増加に伴う市場拡大と政府のインフラ整備本格化を受けて、10年入り後、ほぼ期を迫って外資の直接投資が増加（図表3）。業種別にみると、11年初からは製造業が牽引役。より細かく分けると、規模では引き続き鉱業が最大ながら、フローでは一般機械・電機・輸送用機械製造業が際立って増加（図表4）。サービス業や運輸業も盛り上がり。投資主導で本年も高成長持続の公算大。

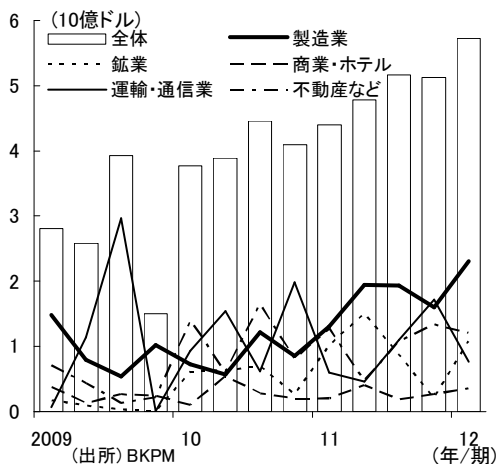
（図表1）インドネシアの四輪車・二輪車販売台数



（図表2）セメント消費量（季調済）



（図表3）外資直接投資の推移



（図表4）主要業種別外資直接投資

